

第9回P I委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果

1 会議概要

日 時：平成25年5月29日（水）15：00～17：00

場 所：静岡県東部総合庁舎 別棟2階 会議室

出席委員：石田委員長、高井委員、松浦委員、寺部委員、目加田委員

傍聴人数：7人（4人提出）

2 アンケート結果

P Iプロジェクトについて

- 鉄道高架事業は県と市が誠意を持って共同で推進してきた事業であり、きちっと時間的管理もされてきた。
- 県の一方的な都合で事業を中断し、事業仕分けや有識者会議により結論が出たにもかかわらず、P Iによって更に先延ばしをはかっている。
- 県の方針であるP Iが行き詰ったから、市の出席を求めることはおかしい。
- 評価する専門家を用意すべきということだが、専門家を集めたものが有識者会議だったはず。
- 科学的、客観的に見たら、現計画が最良であることが結論付けられている。
- 後戻りすることになるので、事務局主体でP Iを進めて欲しい。年内に結論を出してもらわないと、沼津のまちが死んでしまう。
- ステップ3からステップ4に進むことを委員会で図っているが、勉強会を傍聴しているかぎり、ステップ4からステップ5に移る段階であると理解している。
- P I委員会は代替素案ありきで考えている。J Rや市の意見が求められ、答えが出るのであればP Iは必要がないと思う。
- P Iは現計画のままでも良いという結果もあるのではないか。

勉強会について

- P I委員からの意見は、ほとんど勉強会参加者から出されている意見と同じであるが、勉強会においてはもみ消されている感が強い。参加者からの意見を謙虚に取り上げるべき。
- 評価と提案(代替素案)は別々に議論してはどうか。
- 合同勉強会 個別勉強会 合同勉強会という工夫を。
- 事務局はP I委員会の意見を素直に受け入れず、独自路線を取ろうとしているのはおかしい。P I委員会の存在を無視せず、やり方を変えるべき。
- 勉強会等に60歳代、70歳代の参加者が見受けられるが、働き盛りとなっているであろう中高生の意見を聞き出し、説明もしていかなければならない。

3 インターネット中継結果

- アクセス台数 パソコン10台
- 延べ視聴時間 7.2時間